

5. 主な報道発表 (2022年4月6日以降)



◀こちらから当社ホームページをご覧ください

詳細な内容は当社ホームページ <http://www.japc.co.jp> をご覧ください。

主な報道発表はありませんでした

げんでんふれあいギャラリー展示のお知らせ



◀こちらから げんでんふれあいギャラリーのホームページをご覧ください

◆金田 久璋「若狭あどろがたり集成」刊行記念 柴田 邦彦 挿絵原画展 5月10日(火)～5月15日(日)

若狭路文化研究所(所長:多仁 照廣 様)の顧問、金田 久璋 様採集・編集による嶺南の昔話集「若狭あどろがたり集成」刊行記念の挿絵原画展です。敦賀の洋画家 柴田 邦彦 様が描いた表紙絵、挿絵40点を展示予定です。



◆南公民館 切り絵教室 葉月会 5月17日(火)～22日(日)

南公民館で活動されている切り絵教室 葉月会(代表:森本 裕子 様)の6名の皆さまによる作品展です。風景や人物など、様々なテーマの切り絵作品32点を展示予定です。



◆敦賀市自主学习教室 書道教室とパッチワーク教室 書とパッチワーク展

5月24日(火)～29日(日) 最終日は15時まで

敦賀市自主学习教室 書道教室(代表:桐畑 民雄 様)とViva★Quiltパッチワーク教室(代表:上田 佳恵 様)の皆さまによるコラボ作品展です。漢詩や短歌を半切や短冊などに表現した書とパッチワーク作品40点を展示予定です。



◆「わたしたちのデリースタイル No.23」ビーズ・レザー・かご

5月31日(火)～6月5日(日) 最終日は16時まで

ビーズ工房(代表:田中 喜美江 様)の皆さまによるビーズ、レザー、かごなどの作品展です。クラフトテープ、レザーを使ったバッグや小物、ビーズのアクセサリなど150点を展示予定です。



お問合せ

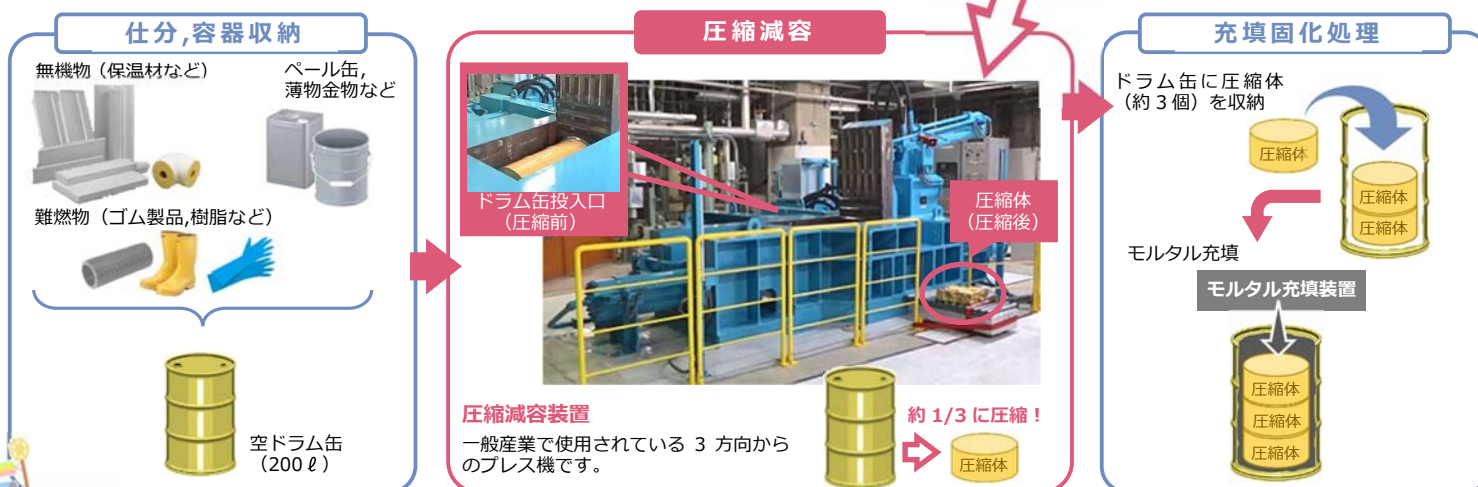
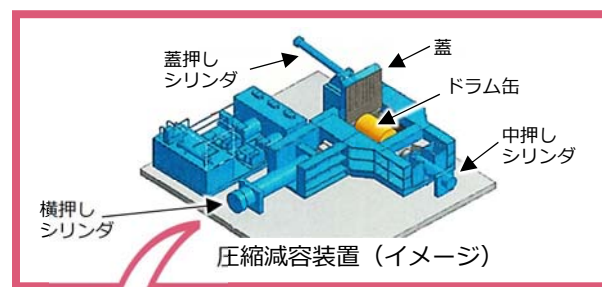
げんでんふれあいギャラリー 敦賀市本町2丁目9-16
フリーダイヤル 0120-749-201 FAX 0770-25-5603
開館時間 10:00～16:30※ 休館日 12月29日～1月3日
※新型コロナウイルス感染予防対策のため、開館時間を短縮しています。
<http://www.japc.co.jp/tsuruga/fureai/event/fureai.html>



◀感染防止徹底宣言ステッカーを取得しています

敦賀発電所 1号機 廃炉措置工事の状況

2022年1月から、廃止措置工事などに伴い発生した放射性廃棄物を約3分の1の大きさに圧縮する圧縮減容装置の設置工事を行い、3月25日に完了しました。



本資料の作成元・お問合せ先: 日本原子力発電株式会社(略称: げんでん) 敦賀事業本部 立地・地域共生部

TEL: 0770-25-5713 住所: 敦賀市本町2-9-16



げんでん いんふおめーしょん 5月号

2022年5月9日

No.213

1. 敦賀発電所の状況 (2022年5月9日現在)

プラント(炉型)	状況
1号機(沸騰水型) 	●2017年5月15日より廃止措置工事中 (廃止措置期間: 24年) ○2015年4月 営業運転終了 廃止措置とは、運転を終了した原子力発電所を解体・撤去し、これに伴い発生する廃棄物を処理・処分し、更地にするまでの一連の作業・措置のこと。
2号機(加圧水型) 	電気出力 116.0 万 kW, 1987 年 2 月 17 日の営業運転開始以降の総発電電力量 1922 億 9908.3 万 kWh ●2011年8月29日～ 第18回定期検査中 ●新規規制基準への適合性確認審査対応中 ○福島第一原子力発電所事故を踏まえた安全対策を行っています。

= 敦賀発電所 2号機の新規制基準への適合性確認審査の状況について =

原子力規制委員会による審査は、現在、敷地内破砕帯評価と地震動評価(地震の揺れ)の二つの論点について進められています。

2020年2月の敷地内破砕帯評価に関する審査会合において、敷地北側にある断層(K断層)と2号機原子炉建屋の直下にある破砕帯との関連性について当社から説明したところ、審査資料に当初記載していたボーリングコアの肉眼による観察結果を削除し、詳細データとなる顕微鏡によるコアの薄片観察結果のみの記載に変更したことについて、不適切であるとのこと指摘を受けました。

ご指摘を受けた件については、審査とは別に品質保証に係る検査として確認していただくことで、審査を継続していただいておりますが、2021年8月18日に開催された原子力規制委員会において、「調査データに基づく当社の評価結果の信頼性が確保されるために必要な業務プロセスの構築が確認されるまでの間は、審査会合を実施しない」という方針が示されました。

当社は、原子力規制委員会の決定を重く受け止めるとともに、審査の進展を期待していただいている地域の皆さまに多大なるご心配をおかけしていることを、心より深くお詫び申し上げます。

業務プロセス構築の取組み状況について10月26日の公開会合でご説明しましたが、11月2日の原子力規制委員会において、今後の進め方として「当社が社内規程改正などの改善活動を終了し、審査資料の準備ができた段階で再度検査し、検査結果を規制委員会に報告すること」が示されました。

当社は、今回の検査にて、改善した業務プロセスおよびこの業務プロセスに則り作成した審査資料から、指摘事項への対応状況を説明します。

敦賀発電所2号機は、当社の経営の柱であることから、引き続き丁寧にご説明してご理解いただけるよう努めてまいります。

2. 敦賀発電所 3, 4号機準備工事の状況 (2022年5月9日現在)

現在、原子炉建屋背後斜面の緑化管理等の建設予定地維持管理およびコンクリート製造・供給プラントの設備維持管理等を継続して行っています。



建設予定地の状況 (2022年4月21日撮影)

3. トピックス

(1) 原子力規制庁の東京電力福島第一原子力発電所事故調査に協力

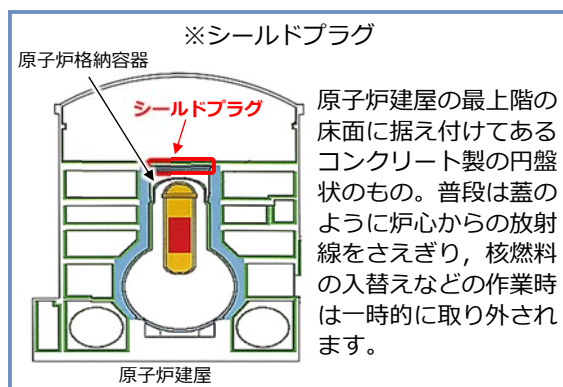
4月8日、原子力規制庁他6名の東京電力福島第一原子力発電所（以下、1F）事故分析検討会調査メンバーが敦賀発電所に来所され、1F事故の追加的な調査が実施されました。

今回の調査は、1F事故時の現地調査においてシールドプラグ※の継ぎ目が放射性物質放出経路の可能性があることによるシールドプラグ変形調査（形状測定）や水素爆発時の可燃性ガス発生源の調査（原子炉格納容器内ケーブルなどの敷設状況調査）が行われました。

廃止措置中の敦賀発電所1号機は1Fと同型であるため、今回の1F事故原因究明の調査に協力しました。



シールドプラグ形状測定の様子



(2) 敦賀発電所 防災訓練、消防総合訓練を実施

敦賀発電所は、3月25日に「防災訓練」、3月30日に「消防総合訓練」を実施しました。

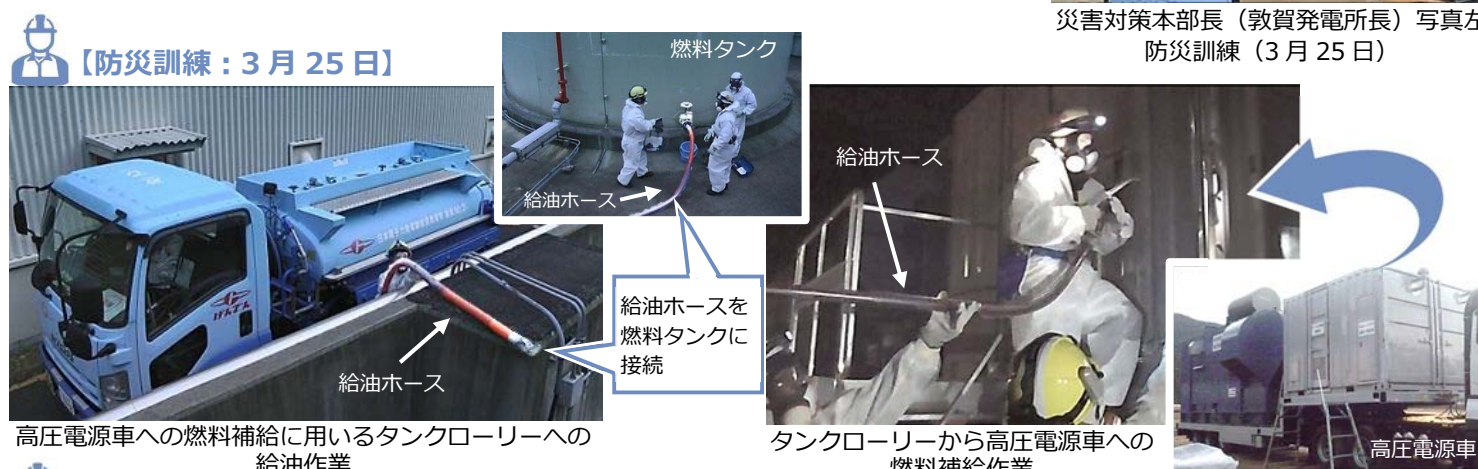
「防災訓練」は、地震が発生したことによる敦賀発電所2号機での全交流電源喪失、使用済み燃料ピットへの給水機能および除熱機能の喪失を想定し、事故収束に向けた現場対応能力の向上を目的としています。訓練は日没後も行われ、災害対策本部と現場要員との連携や迅速・確かな情報共有、高圧電源車への燃料補給および高圧電源車による電源供給などの対応について確認しました。

「消防総合訓練」は、地震が発生したことにより敦賀発電所構内において複数の火災および負傷者が発生したことを想定し、敦賀発電所自衛消防隊が迅速かつ的確な消防活動ができること、発電所員による負傷者救護ができること、前年度訓練の改善事項に対する改善策の有効性などを確認しました。

当社は、今後も継続的に訓練を実施し、更なる安全確保に努めてまいります。



災害対策本部長（敦賀発電所長）写真左
防災訓練（3月25日）



高圧電源車への燃料補給に用いるタンクローリーへの給油作業

タンクローリーから高圧電源車への燃料補給作業



高圧電源車

【消防総合訓練：3月30日】



2 災害対策本部長（敦賀発電所長代理）写真右

前進指揮所の様子

放水訓練の様子

(3) 美浜原子力緊急事態支援センター資機材搬送訓練を実施

美浜原子力緊急事態支援センター（以下、支援センター）は、4月6日、原子力災害制圧道路が地震などで崩壊したことを想定し、支援センターが保有する資機材（ドローン、小型ロボットなど）の徒歩による運搬訓練を行いました。

訓練では、資機材の収集、緩衝材による保護、収納箱への資機材などの収納、背負子への固縛など、一連の手順を確認し、徒歩による運搬状態の確認を行いました。

当社は、今後も万が一の事態に備えて、継続的に訓練を行ってまいります。



小型ロボットを背負子に固縛



徒歩による運搬確認

4. 敦賀総合研修センター 公開研修コースのお知らせ



◀こちらから敦賀総合研修センターのホームページをご覧ください

敦賀総合研修センターでは、新型コロナウイルスの感染予防対策を講じたうえで、29コースの公開研修を計画しています。以下はお申込み期限が近づいている主なコースの内容です。その他の公開研修コースの詳細、応募方法は、QRコード※または下記URLから当社ホームページをご覧ください。

なお、当面の間、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、感染状況に応じて福井県以外の地域からの受講お申込みをお断りする場合があります。ご迷惑をお掛けしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

<http://www.japc.co.jp/tsuruga/tsuruga-training/index.html>

※QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です

研修名	研修概要	研修期間	申込期限
根本原因分析手法コース	事故やトラブルの原因分析に用いられるSAFER（Systematic Approach For Error Reduction）を理解し、問題の根本的な原因を明らかにする手法を学びます。本コースで学ぶ手法は、原子力の現場だけでなく、一般産業のあらゆる場面でも活用できます。	6月22日午後～23日（1.5日）	5月13日
労働安全衛生コース	従業員や作業員を災害から守るために労働安全衛生法の基礎知識および安全管理の手法の一つである労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）について学びます。また、現場作業の危険性を疑似体験することにより安全意識の向上を目指します。本コースは原子力作業現場に限らず、一般作業現場においても有益な研修です。	7月4日～5日	5月25日
ヒューマンファクターコース	人はエラーを避けられません。人間の特性を知り、仕事の中でのエラーを防ぐ対策を講じることが大切です。本研修では、人間の基本特性や集団特性などを理解するとともに、現場作業時のヒューマンエラー（人に起因する誤り）の防止方を学びます。ヒューマンエラーの防止方を学ぶことは有益なことであり、広く一般の方にお勧めします。※2日間コースですが、1日単位での受講も可能です。	7月19日（基礎） 20日（管理・事例）	6月9日

公開研修に関する
お申込み・お問合せ先

敦賀総合研修センター（敦賀市杵見165号9番地6）
電話：0770-21-9700 FAX：0770-21-9726（応募申込み専用）
メールアドレス：tsuruga-tr-center@japc.co.jp

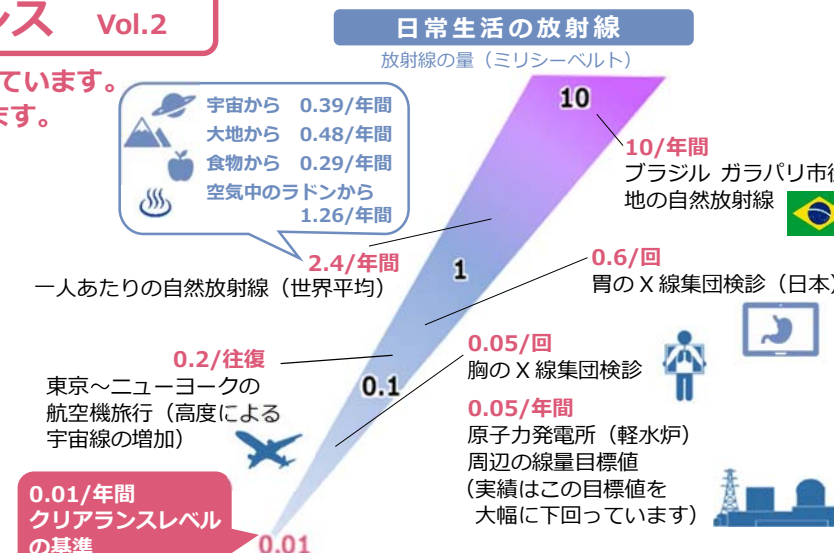


ご存じですか？クリアランス Vol.2

先月号からシリーズで「クリアランス」をご紹介します。今回は「クリアランスレベル」についてご説明します。

クリアランスレベルの基準は、原子力発電所から搬出されたものが、どのように再利用または廃棄物として埋め立てられたとしても、人体への影響は無視できると、国際原子力機関（IAEA）が認めている1年間あたりの被ばく量が、0.01ミリシーベルトを超えないことを基準として決められています。これは、自然放射線の1/100以下であり、クリアランスレベルはこの基準を超えないように決められています。

（次回は、「クリアランスレベルと身の回りのものとの放射能濃度の比較」です）



出典：放射線医学総合研究所調べ等による